

部落女性と婦人水平社

日時 2022年5月27日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 宮前 千雅子（委嘱研究員）

2022年は水平社創立から100年にあたる記念すべき年である。メディアなどで特集が組まれてはいるが、水平社に少ないながら部落女性も参画していたことはほとんど取り上げられていない。

彼女らは自らが遭遇する苦悩や困難を「二重三重の差別と圧迫」や「二重三重の鉄鎖」などと表現し、その解決のために立ち上がる必要性を広く仲間に対して訴えかけていった。部落女性の経験は、部落男性のそれとも非部落女性のそれとも異なる独自のものであることを、彼女らは認識していたといえよう。しかしながら、その訴えは婦人水平社という特別な枠組みにおいて振り返られることはあったとしても、水平社や水平運動全体に位置づけられることはなかった。また女性史においても、彼女らの存在が取り上げられることはなかった。

「二重三重の差別と圧迫」と表現された部落女性の経験は、どのようなものだったのか。なぜその存在は不可視化されてきたのか。100年前の彼女らの声に耳を傾けながら、考えていきたい。

* * *

●聴講無料
(定員80名/先着順)
＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

※受講申込にあたっては、以下の〔新型コロナウイルス感染予防対策〕にご留意のうえ、ご理解とご協力をお願いいたします。

〔新型コロナウイルス感染予防対策〕

- 受講者はマスクを必ず着用してください（マスク着用でない場合、受講はご遠慮ください）。
- 受講者は受付で手指消毒用のアルコールにて消毒してください（会場内は事前に消毒を行っています）。
- 座席は間隔を空けて設定いたします。また演台に近い座席は使用しません。
- 換気のため、会場の出入口のドアは講演中も開放いたします。
- 三密対策として、会場内やロビーでの談笑はご遠慮ください。
- 当日、体調不良の方、特に喉の痛み、咳、および熱のある方（体温が37.5℃以上の方）の受講はご遠慮ください。当日は入場時に検温を行います。
- 参加者に感染者が発生した場合は必要に応じて、保健所など公的機関へ氏名および連絡先の情報が提供されることがあります。
- 接触確認アプリCOCOAのインストールを推奨します。
- 感染拡大の際は、講座の開催を中止する場合があります（その場合、受講申込者に連絡いたします）。

手話通訳が必要な場合は、5月18日（水）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第109回 10月28日（金）13：00「子ども虐待のいま－日本の現状と課題－」（仮題）

第110回 11月25日（金）13：00「ジェンダーの視点から見る男性の働き方、暮らし方」（仮題）

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>